

Small Talk台本②（第6時・第7時のはじめ5分）

進め方（文科省の型）：帯活動として2時間に1回。6年はペアで伝え合うことを中心に、相手を替えて1～2分×2回。1回目のあとに中間指導（下の「ことばの補給」）を挟む。なりきりではなく**本当の気持ち・本当の出来事**を話す。

話題1 自分の話のままでは、すすめられない（第6時）

板書：I want to go to ～.（自分の話） ⇔ You can ～.（相手の話）

T Welcome! I want to go to Italy. I want to eat pizza.

（旅行代理店の店員になって）いらっしゃいませ！わたしはイタリアに行きたいです。ピザが食べたいです。

S ...?

（「先生が行きたいだけでは？」という顔になる。「変だった？」と日本語でたずねる）

T Right! How about Italy? You can eat pizza.

そうだね！イタリアはどうですか？ピザが食べられますよ。（中身は同じ・はじめだけ入れかえ）

T Your turn. Say it with I, then say it again with You.

みんなの番。まずIで言って、そのままYouに変えて言い直そう（ペアで1回ずつ）

S I want to see koalas. — You can see koalas!

（見どころは同じまま。変えるのは文のはじめだけ）

つまった子への助け舟：言い直せない子には、先生がI want to eat pizza. といい、子どもはYou can eat ...? と返せばよい。

話題2 同じ国でも、すすめる見どころは相手にちがう（第7時）

板書：Do you like ～? → You can ～. [同じ国の絵カードを2枚、はなして貼る]

T Do you like food? How about Italy? You can eat pizza!

（Aさんに）食べものは好き？イタリアはどうですか？ピザが食べられますよ！

T Do you like old things? You can see the Colosseum!

（Bさんに）古いものは好き？同じイタリアをすすめるが、言う見どころだけを変える

T Same country. Different words. Why?

同じ国なのに言ったことがちがう。どうして？（「先に好きなものを聞いたから」が出たら Do you like ～? を黒板へ）

T Now, in pairs. Ask Do you like ～? Then say You can ～.

ペアで。「～は好き？」と聞いてから「～ができますよ」（相手を替えて2回）

S Do you like animals? — Yes! — How about Kenya?

（聞いてから提案できたら、この単元でいちばん伸びたところ）

つまった子への助け舟：たずねる文が出ない子には絵カードを2枚見せ、Animals? Or food? と選ばせる。指させたらその国をすすめさせる。

中間指導 1 回目のあとに全体で（ことばの補給）

（話題1の子どもの言い直しは You can ～. まで言えれば十分。How about Australia? を頭に足せたら店員として完成——2回目にまわす）ロールプレイ①の1回目のあとに全体で：「お店の人なのに『わたしは行きたい』と言ってしまった人？」と聞いて、まず手をあげてもらおう（先生もあげる）。→ 黒板の右がわに You can の2語だけを書き足し、全員で2回言う。ふやすのはこの2語だけ。書き足した You can は第8時のテストの日まで消さない——テストで自分の話にもどってしまった子が、目でここを探して自分で立て直せるようにするため。

対話を続けることば 黒板横に掲示しておく

はじめる	Hello! / How are you?
くり返す	Soccer? Me, too!（あいての言葉をくり返す）
ひとこと感想	Nice! / Wow! / Really? / Good!
たしかめる	Pardon? / One more time, please.
さらに質問	How about you? / Why?
おわる	Thank you. / See you!

先生へ

- ・6年のSmall Talkはペアで伝え合うのが中心。話題1の先生の失敗は1分で切り上げ、ペアの時間を確保する。「行ったことがある国」はどちらの話題でも出さない——先生が口にした瞬間にこの単元の土俵がこわれる
- ・話題1の仕掛けは「先生が自分の話だけをする」こと。文法のまちがいではないので、子どもは日本語でしか説明できない——それでよい。「先生の話しか言っていない」と言えたら、この単元の核をつかんでいる
- ・話題2は聞く人の練習に見えて、実は店員の準備。相手の好きなものを1つ聞いておくと、同じおすすめカードのままでも言うことを選べる——第7時のロールプレイ②で提案が長くなるのはここが理由

